

Savan PAD

Project for Participatory Agriculture Development
in Savannakhet Province

プロジェクトのポイント



モニタリング・評価

灌漑

営農

マーケティング

この冊子は、プロジェクトの概要が理解できるよう、これまで発行した
ニュースレター（全 15 号）を活動内容ごとに整理しなおしたものです。

Provincial Agriculture & Forestry Office, Savannakhet Province

Japan International Cooperation Agency (JICA)



I. Savan PAD プロジェクトについて

プロジェクト活動方針<ニュースレター1号> 1
-----------------------	---------

II. プロジェクト活動内容と成果

1. 灌漑分野

(1) 灌漑技術強化と成果(施設・水管理)<ニュースレター2号> 3
(2) 灌漑技術強化と成果(ポンプ技術)<ニュースレター7号> 5
(3) 水利組織強化と成果<ニュースレター5号> 7

2. 営農分野

(1) 乾季作における活動内容と成果<ニュースレター3号> 9
(2) 雨季作における活動内容と成果<ニュースレター9号> 11

3. マーケティング分野

(1) 乾季作における活動内容と成果<ニュースレター4号> 13
(2) 雨季作における活動内容と成果<ニュースレター8号> 15

III. Savan PAD プロジェクト技術普及(ガイドブックの紹介)

1. ガイドブック(灌漑分野)<ニュースレター10号> 17
2. ガイドブック(営農分野)<ニュースレター11号> 19
3. ガイドブック(マーケティング分野)<ニュースレター12号> 21

IV. 優良事例の紹介

1. ノンブアルアン地区、セーサラロン地区<ニュースレター14号> 23
2. ポンシム地区、トンハン地区<ニュースレター15号> 25

V. その他

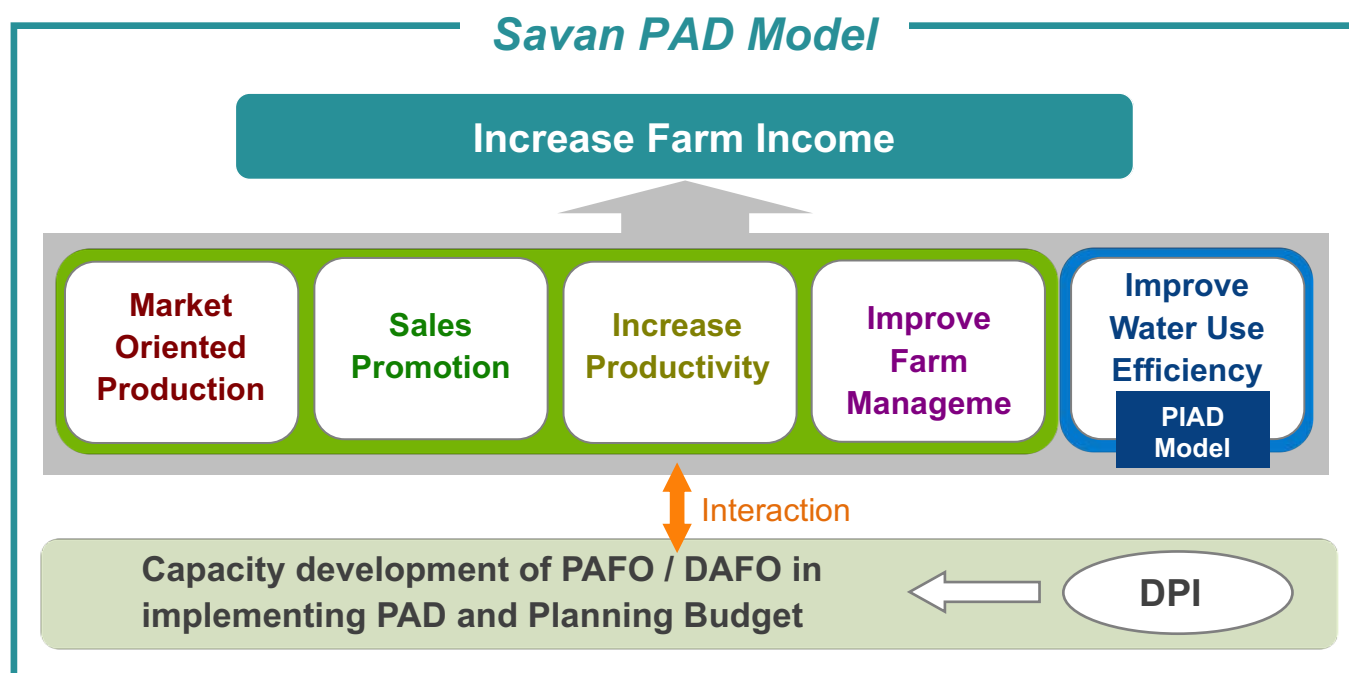
1. 地方行政に関するスタディツアー<ニュースレター6号> 27
2. コロナ問題下での活動継続状況<ニュースレター13号> 29



Savan PAD プロジェクトの活動方針

Savan PAD プロジェクトは 2017 年 6 月～2022 年 6 月の予定で、サバナケット県がプロジェクトの主体となって実施しているプロジェクトです。

Savan PAD では、農家の収入向上を目指し、営農 (Increase productivity)、マーケティング (Market oriented production, Sales promotion, Improve farm management)、灌漑 (Improve water use efficiency) に関する行政職員、水利組織、農家の能力強化を行っています。



① 稲作の栽培技術指導

- ・過剰施肥や肥料不足、農薬の不適切な使用、不十分な病虫害対策、栽培技術の未熟さからくる減収や品質の低下などの問題への指導。

天然由来の忌避剤作成研修



② 市場動向や販売収支を踏まえた栽培計画作成と実践



農家による市場調査

- ・「作るための農業」から「売るための農業」への意識醸成。
- ・市場動向の把握、収支計画・栽培計画の作成指導。
- ・販売促進のための活動支援 (屋根掛け栽培や無農薬栽培の奨励、ラオスでは輸入が多いが代替可能な品種の栽培 (ズッキーニ、ダイコン、オクラなど)、野菜の栽培技術



上から、ズッキーニ、オクラ、ダイコン

③行政職員による販路開拓・販売促進支援

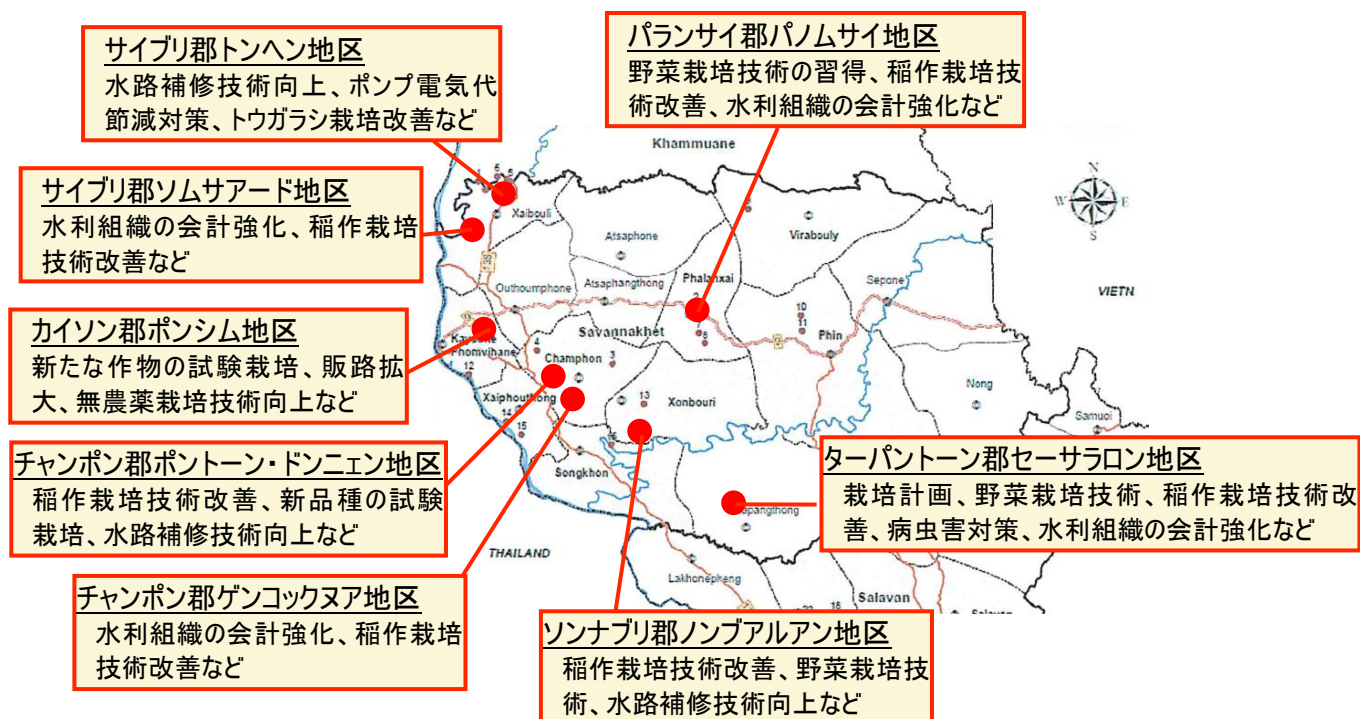
- ・農家による市場での直接販売に加え、商工局職員らが中間商社や地元企業、レストランを回っての販促活動の展開、農家とバイヤー間のマッチング促進。

④灌漑施設管理・水管理技術に関するキャパビル

- ・限られた予算、人員での灌漑施設の維持管理に関する技術指導。
- ・ポンプ稼働にかかる電気代節減のための灌漑調査、分析指導。
- ・水利組織の財政改善、水管理技術の強化などに関する技術指導。

Savan PAD プロジェクトの対象地区

2019年5月現在、サバナケット県内の6郡8地区を対象地区として活動を展開しています。



2019年内には、さらに新規地区4地区が選定される予定です。

乾季作の活動成果(予告)

現在、2018/2019年乾季作の活動成果を整理中。

これまでのところ、対象7地区合計では「灌漑面積が4割以上増えた」、ある対象地区では「今年の乾季作の水代は全て回収し、今回の灌漑ポンプ用電気代は全額支払い済み」などの状況が見えてきています。

詳細は、次号でお知らせします。



農家全員でパイプを設置中
(詳細は次号でお知らせ)

灌漑分野:2018-2019 年乾季作における活動成果

Savan PAD プロジェクトの灌漑分野の活動では、農家の収入向上に資するため、県・郡職員の灌漑施設管理・水管理技術の向上、水利組織への指導能力の強化、水利組織の財政改善や施設管理能力の向上を中心に活動を行っています。

今回は、灌漑分野における 2018-2019 年乾季作(2018 年 12 月～2019 年 3 月)の活動内容や成果について報告します。

1) 主な活動内容

① 灌漑施設管理・水管理技術の向上

- ・限られた予算、人員で灌漑施設が維持管理できるための水路の簡易補修技術研修
- ・灌漑用ポンプ稼働にかかる電気代節減のための水管理技術の現場指導

- 流量測定、灌漑水量の分析
- 分析結果の水利組織への説明、助言



補修技術研修(座学)



補修技術研修(実地)

② 水利組織の財政改善・施設管理能力の向上

- ・現在の財政状況を把握するための会計研修と現地での会計フォローアップ
- ・灌漑施設管理に関する現場での指導



流量測定トレーニング



水利組織会計研修

2) 成果

① 灌漑面積の増加(7 地区合計*)

*灌漑の行われていないカイソン郡ボンシム地区を除く

地区	2017-2018 乾季 (2017.12 - 2018.3)	2018-2019 乾季 (2018.12 - 2019.3)	増加面積
サイブリ郡トンヘン地区	343 ha	422 ha	+79 ha
サイブリ郡ソムサード地区	115 ha	191 ha	+76 ha
チャンポン郡ポントーン・ドンニエン地区	51 ha	67 ha	+16 ha
チャンポン郡ゲンコックヌア地区	42 ha	42 ha	-
パラサイ郡パノムサイ地区	46 ha	89 ha	+43 ha
ターパントーン郡セーサラロン地区	286 ha	474 ha	+188 ha
ソンナブリ郡ノンブアルアン地区	39 ha	59 ha	+20 ha
合計	922 ha	1,344 ha	+422 ha

②長期補修計画の作成

- ・全 7 地区で灌漑施設の長期補修のための積立計画が作成された。これを目標に水利組織は予算を積み立てていく。

③会計簿の改善と未納電気代の整理

- ・電気代の請求と支払い記録を整理し、現在どれだけの未納額があるかが明らかになった。

長期補修の積立計画(トンハン地区)

④水代未納農家のリスト化

- ・水代未納農家をリストアップし、今後はこれを基に徴収業務を行っていく。

⑤流量計測による灌漑実績水量の把握

- ・流量計測、ポンプ稼働時間の記録により、おおよその灌漑実績水量を把握した。今後は、更にデータを収集し、最終的にポンプ電気代や水代の節減を目指す。

自分たちの力で水路を延伸—ノンブアルアン地区

私達の地区では、かつて水路拡大の計画を立てたのですが、工事に割く労働力もポンプの揚水力も不足していたため、実現には至りませんでした。しかし、Savan PAD の活動で農地や水路の高低差の計測が始まるにつれ、地元の農家達の中に「もう一度自分たちで水路を拡大したい」という思いが蘇ってきたのです。そこで、農家が力を合わせ、プロジェクトから得られた技術的な助言や 500m 分のビニール資材を



水路延伸(黄色部分)により灌漑エリアが拡大

ソナブリ郡
ノンブアルアン地区
カンブアック農家組合長



活用しながら、ついに 800m の水路延伸が叶いました。これらは全て、プロジェクトと農家メンバーの協力の賜と言えるでしょう。

水代を全額回収—ゲンコックヌア地区



サイブリ郡トンハン地区に赴き
経理のノウハウを聞き取り

Savan PAD の活動により、私たち農家が変わったと実感する点は色々あります。

特筆できるのは、今年の乾季作で水代の回収率が 100%に達したことです。これは、水利組織の会計処理や管理のノウハウを学んだことで収支の記録方式がシステム化されたこと、そして、会計担当役員の業務分掌をきちんと定めたことにより、回収された水代が決められた現金出納役に直接納められるようになったことが大きな要因だったのだと思います。



チャンボン郡
ゲンコックヌア地区
キーヤイ水利組合長

<次回予告: 営農分野(コメ)>

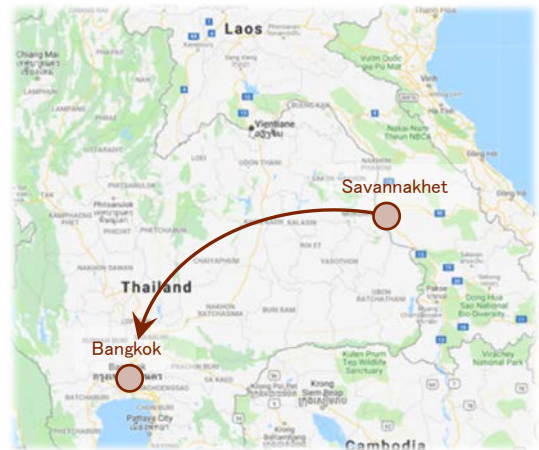
営農分野(コメ)は、「適切な栽培技術を多くの農家に広く普及する」ことを目標に活動しました。何人の農家に普及して、何トンとれたのか? 次回報告します。

灌漑ポンプ用モーター維持管理、点検、診断技術研修の実施

プロジェクトでは、灌漑スタッフに対するモーターの維持管理、点検、診断技術力を強化するため技術研修を8月26日～31日に、タイの首都バンコクで実施しました。

1. ポンプ修理研修が必要な背景

灌漑用ポンプモーターは、水利組織が維持管理を行い、県農林局 OM(施設管理)ユニットや郡農林事務所(DAFO)が技術支援をしています。しかし、①日常のメンテナンス(ベアリングに注入するグリスはどの程度入れれば良いか等)や、②点検のポイント(こういった症状が出たら修理すべきなのか、長持ちさせる方法等)、③異常を早期に発見するための診断技術が不足しています。そのため、プロジェクトでは、灌漑部門のカウンターパートを対象に、これらの技術力を強化するための研修を実施しました。



2. 研修の内容

実用的な知識・技術を強化するため、プロジェクト地区の灌漑ポンプ用モーターを使用してオーバーホールをモーター修理会社に依頼し、全てのオーバーホール作業に4名の灌漑スタッフが立ち会いました。作業中、灌漑スタッフから技術者に対して様々な質問がされ、また、技術者からモーターを長持ちさせるポイント、日常の点検、維持管理の方法等について説明を受けました。

研修参加者

- Mr. Vanlakhone PHANGTHAVONG
(サバナケット県農林局 OM ユニット長)
- Mr. Soutsavanh KEOPHALIVANH
(サバナケット県農林局 OM ユニット)
- Mr. Vetsada CHANTHAVONGSA
(サイプリー郡農林事務所灌漑担当)
- Mr. Sanh PHIMTHONGSING
(ターパントン郡農林事務所灌漑担当)



オーバーホール前のモーター



コイル取り付け(重要な作業)



部品洗浄の手伝い



技術者の説明を受ける



性能確認

3. 研修の成果

研修で得た知識と経験を技術ブックとしてとりまとめました。技術ブックは、①灌漑スタッフと水利組織が使う技術、②灌漑スタッフが基本知識として知っておくべき技術、の構成でとりまとめました。



毎日夕方に打合せを実施し
学んだことを共有



技術ブック作成

技術ブックの主な内容

I. ポンプモーター維持管理、日常点検・診断技術

- ・長持ちさせる 3 つの重要なポイント
- ・毎日の稼働時にチェックすべき項目
- ・電気代を減らすためのコツ
- ・ベアリングに使用するグリスの品質、塗布量
- ・稼働中の点検のポイント



II. ポンプモーター修理技術

- ・オーバーホール作業ステップ
- ・部品分解、組立時に気をつけるポイント
- ・交流／直流モーターの特長
- ・ベアリング装着時のポイント

など

～研修参加者より～

ワンラコーン・パンタウン
サバナケット県農林局
OM(施設管理)ユニット長



今回の研修で明らかになったのは、これまでのポンプの使い方が実は適切でなかったという点、そしてラオスにおけるポンプ修理技術が十分なレベルにないという点でした。例えば、ポンプの設置時に十分な均平化がされていない、交換部品の品質が十分な基準を満たすものでないなどの点は、供給される電気の電圧が不安定なこと合わせて故障の主な原因になっています。

研修後には、ポンプの取扱いや保守方法について一冊の技術ブックにまとめました。この本が DAFO 職員や水利組織自らの適切なポンプの利用と維持管理向上の一助になるよう願っています。

技術ブックに関する質問や電子ファイルが欲しい方はご連絡下さい。

サバナケット県農林局灌漑課
(担当:ワンラコーン 041-212152)

4. 今後の予定

今回お世話になったモーター修理会社の技術者によるラオスでの研修を実施します。具体的には、サバナケット県において灌漑農業を行う地域の農家(ポンプ担当者)と行政官に対して、現場における灌漑ポンプ用モーターの維持管理の方法や、毎日の点検について指導を受ける予定です。

次号予告

マーケティングチームでは雨季に屋根掛けハウスによる野菜栽培や黒ゴマ栽培、販売支援を実施しました。次号でその結果を報告いたします。

水利組織の財政改善の取り組み

水利組織にとって、灌漑の水管理や施設管理は重要な活動ですが、特にポンプに依存する地区では、施設の補修費用に加え、ポンプを稼働するための電気代も工面する必要があり、十分な予算が必要とされます。

一方、そのための財源は、組合員農家からの水利費で賄われています。しかし、農家個々の経済的な問題や、水利組織に対する不信感などにより、水利費の徴収は容易なことではありません。

今号では、当プロジェクトの対象地区における水利費徴収や電気代の支払い状況、そしてどのように改善の取り組みがされているかについて報告します。



老朽化したポンプ
ポンプは灌漑施設のライフライン

1) 水利費の徴収状況(2018/19 乾季) ~2019.8.1 現在のデータ~

(単位:キープ、100,000 キープ=約 1,220 円)

対象地区	ヘクタールあたりの水利費	徴収すべき水利費合計	徴収状況	
			徴収済み	徴収率
トンハン地区	730,000	308,910,000	265,702,000	86%
ソムサード地区	853,000	163,001,995	124,500,000	76%
ポントン・ドンニエン地区	617,554	41,000,000	27,000,000	66%
ゲンコックヌア地区	760,929	31,959,018	31,959,018	100%
パノムサイ地区	619,189	54,924,259	41,779,716	76%
ノンブアルアン地区	320,000	18,843,000	13,701,000	73%
セーサラロン地区	* 67,000	31,317,500	31,115,500	99%

* セーサラロン地区は、上流のダムからポンプを使わずに引水するため電気代がかからず、水利費は安価。

徴収率は DAFO 職員の支援により昨年と比べ改善している。100%徴収を達成した地区もある。

2) ポンプ電気代の支払い状況(2018/19 乾季分)

対象地区	電気代(kip)	支払い状況
トンハン地区	111,069,225	約半額支払済 (58,000,000 kip)
ソムサード地区	66,884,452	100% 支払済
ポントン・ドンニエン地区	14,500,000	100% 支払済
ゲンコックヌア地区	15,159,120	100% 支払済
パノムサイ地区	31,983,368	100% 支払済
ノンブアルアン地区	7,066,000	100% 支払済
セーサラロン地区	なし	なし

なぜトンハンは半額しか払っていないの？

<水利組織役員の回答>

電気代を支払うためには各農家から水利費を徴収するのですが、それには大変な労力を要します。

一方、電力会社職員も、電気代を払ってもらうために、水利費の徴収に協力してくれています。電気代を一度に払うのではなく、ある程度の水利費が徴収できたら電気代を払うようにしているのです。

3) 各地区の取り組みの事例

関係者全員の努力の結果、各地区の財務状況は改善しています。しかし一方では、過去の負債（電気代の未払い）が残っているという実情もあります。この問題を解消するために、いくつかの地区で取り組んでいる内容や状況について、以下に紹介します。

事例 1 チャンポン郡 ゲンコックヌア地区水利組合

同組合では、2018年から2019年の水利費を組合員から100%徴収し、これをポンプの電気代支払いに回しています。しかし、過去の電気代の未払いは解消されておらず、少しずつでも未払いを解消しようと努力を続けています。例えば今年の乾季作の場合、徴収した水利費の残金をやりくりして捻出した40万キープを未払い分に充当しています。



トンハン地区で經理のノウハウを学ぶゲンコックヌア地区役員たち

事例 2 ソンナブリ郡 ノンブアルアン地区水利組合

同組合では各組合員の未払い金とどれだけあるかが把握されています。そのため、組合員農家の各家庭の電気代に未払い金を上乗せして請求書を発行し、これを徴収することで、過去の負債の返済に充てようと検討中。現在、電力会社、村長、郡知事らとともに協議がされています。



電力会社との連携について村長を交えて協議

事例 3 サイブリ郡 トンハン地区水利組合

灌漑面積を拡大し水利費の増収を図るため、日本の「草の根無償」※の支援を受けた幹線水路2,000mの整備が着工中です。

一方、かつてJICAの「南部メコン川沿岸地域参加型灌漑農業振興計画プロジェクト」(通称PIAD、2010年から5年間の協力)により整備された水路と、今回新たに整備される水路との間には156mの土水路があります。現在、同組合では、PIADで学んだ建設技術を活かしながら、自主施行でこの区間の整備を行っており、間もなく完成する予定です。



自力で水路を整備中

※外務省「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

郡職員からひと言：「草の根無償」による水路整備

最初はこの事業の申請方法すら分からず、ただ気が重かったのですが、日本人専門家の力添えで、申請までの段取りや申請に必要な情報の内容、水路拡充によってどれだけの住民が裨益を受けるかを検討する必要性など、色々学ぶことができました。

そして今、事業の承認が得られたことで、トンハン地区の人々の力になれたのとは感じています。地区の組合員メンバー達も、事業を受け入れるために自分たちがすべき役割を懸命に果たそうとしているのが良く分かり、それを見るのが嬉しいです。



サイブリ郡
農林事務所員
ウエッサダーさん

<次回(9月下旬頃)予告： ミャンマー、フィリピンにおけるスタディーツアー>

8月中旬から下旬にかけて、地方行政分野を中心としたスタディーツアーのため、プロジェクト関係者数名がミャンマーとフィリピンを訪れる予定です。次号は、この結果について報告します。

営農分野(コメ) : 2018-2019 年乾季作における活動成果

Savan PAD プロジェクトの営農分野では、コメの生産性向上を図るため、種子更新や肥料の適期・適量の施用などの基本的な栽培技術の普及に力を注ぐとともに、病害虫対策などの指導も行ってきました。

今回は、営農(稲作)分野における 2018-2019 年乾季作(2018 年 12 月～2019 年 3 月)の活動内容や成果について報告します。

1) 活動内容: 栽培技術の普及—種子・肥料貸付、栽培技術強化プログラム

<ポイント>

- ・栽培技術を普及するため、種子・肥料の貸付けと栽培技術研修をひとつのプログラムとして展開
- ・全ての農家がプログラムに応募可能、応募者は栽培技術研修の受講を義務づけ
- ・研修: 種子の選別、基肥、植付・直播き、追肥などの基本的技術を中心とした内容
- ・栽培開始後、現場での技術フォローを実施: 播種、施肥、生育管理、病害虫対策など
- ・収穫後、貸与を受けた種子・肥料の代金を回収
- ・回収された代金は、次季作の基金として PAFO が管理



種子、肥料の引渡式



① 希望農家の登録



② 研修受講



③ 研修後、種子と肥料を配付



⑥ 代金の回収



⑤ 収穫



④ 現場で技術のフォロー

カウンターパート(CP)から一言: 農家に栽培技術を普及するコツ

肥料は基肥、追肥(1回目)、追肥(2回目)の3回に分けて行いますが、研修に来てもらうため、肥料は一度に渡さず、研修の度に分けて渡しました。

サバナケット農林局
営農分野 CP チャンラコーンさん



2) 成果

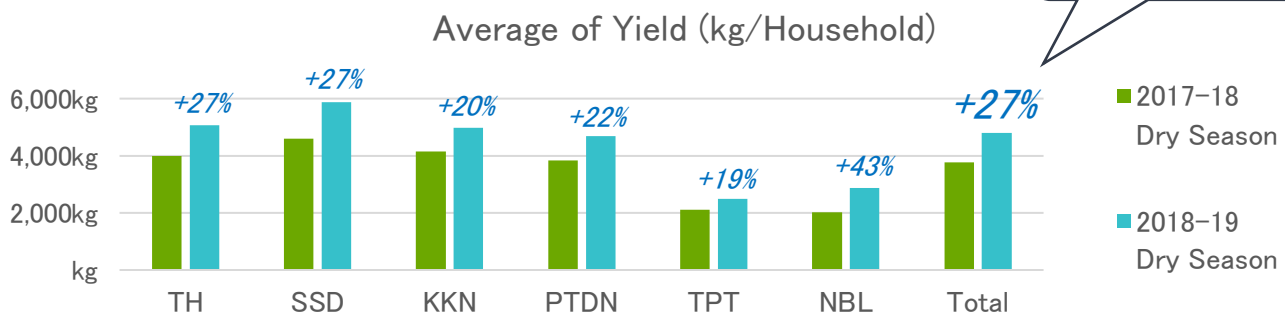
①多くの農家による参加

本プログラムに参加した農家数 **263 軒**

対象地区の農家総数 **約 1600 軒**

全農家中
16%の農家が参加

②収量の増加(農家一戸あたり)



全体で
27%の増収

③参加農家と非参加農家の比較

このプログラムに参加した農家をサイブリ郡(トンヘン地区、ソムサード地区)でサンプリング調査(実測調査)したところ、参加農家の増収割合が高いとの結果も出ています。

地区名	農家区分	収量 (t/ha)		増収率
		2017-18 年 乾季	2018-19 年 乾季	
トンヘン	参加農家	3.68	4.55	23.6%
	非参加農家	5.65	5.06	-10.4%
ソムサード	参加農家	5.21	5.94	14.0%
	非参加農家	4.93	5.13	4.1%

<貸付金の回収状況>

今回のプログラムは、ラオス側、日本側双方で予算を分担し、約 33,000 米ドル分を貸し付けました。貸付金の回収状況は 32,500 米ドル相当で、98%を回収していることになります。これは、現在、2019 年雨期作の貸し付けに活用しています。

農家の声

今年の乾季の収穫は、通年ならば 70~75 袋程度(約 3~3.2t)のところ、120 袋(約 5.1t)にもなりました。種子を新しいものにしたこと、これまで使わなかった基肥を使うようになったこと、耕地面積に最適な量を計算して施肥したことなどが良かったのでしょう。これらは、全てプロジェクトの研修で学んだものです。このプログラムが今後も継続するなら、きっと村の全ての農家が参加したいと思うに違いありません。

サイブリ郡ホワイヘー村
シンマー村長



<次回予告:マーケティング分野>

マーケティング分野では、農家と一緒に、収入向上のための野菜作りに取り組んでいます。「何の野菜を作っているのか?」「どこに販売しているのか?」などについて報告します。

営農分野(コメ): 2019 年雨季作における活動成果

営農分野では、コメの生産性向上を図るため、2018-2019 年乾季作から、栽培技術の普及を一つのプログラムとしてパッケージ化して実施するとともに、優良種子を普及するため種子生産にも力を入れてきました。今回は、これらの成果について報告します。

1. 種子・肥料貸付事業、栽培技術強化プログラム

この事業は、農家に優良種子と肥料を貸与する前に、研修により適切な技術の実践を促し生産性を高め、収穫した後に種子と肥料の代金を回収するというプログラムです。



第1回研修後の種子、肥料の配付

1) プログラムの流れ



2) プログラム実施結果

<対象農家と農地面積>

項目	前回プログラム実施時 2018-2019 年乾季(12月～3月)	今回プログラム実施時 2019 年雨季(6～10月)
参加農家数	263 軒	385 軒
栽培総面積	273ha	417ha

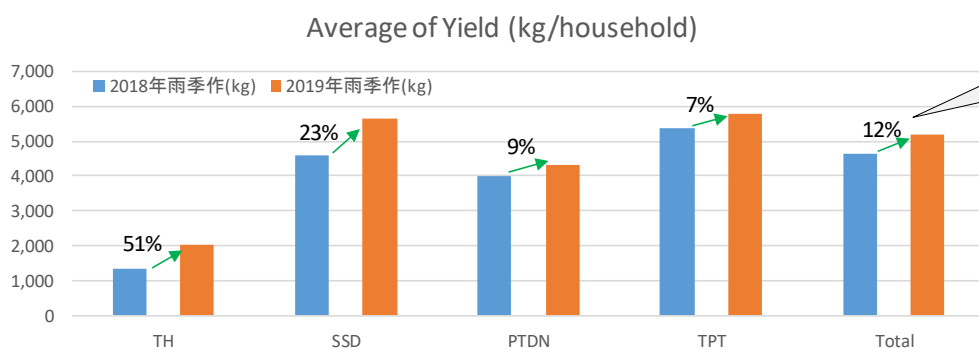
プログラムの認知度が高まり、参加者が増加。

<施肥を実施する農家の割合>

施肥の内容	前年(プログラム実施前) 2018 年雨季(6～10月)	今年(今回プログラム実施時) 2019 年雨季(6～10月)
基肥	33%	92%
追肥(1回目)	34%	91%
追肥(2回目)	14%	51%

多くの農家が施肥を行うようになった。

<プログラム実施前後の収量比較>



平均で 12%増収。

* KKNの全農家, NBLの全農家, PTDNの一部農家は洪水被害たのためデータなし

<貸付金回収状況>

- ・洪水による被災の激しかった農家を除き、総額 287,765,000kip (約 353 万円)を回収。
- ・回収率は 96%(2019 年 12 月 23 日時点)。

2. 種子生産活動

ターパントン郡はサバナケット県中心部から約 150km 離れており、優良種子へのアクセスが良くありません。このため、プロジェクトでは種子生産の支援も実施しています。今季は初回のため小規模な実施でしたが、次季は面積を拡大して継続する予定です。

- 対象地区:ターパントン郡セーサラロン地区(7 農家)
- 活動内容:種子生産研修の実施
他地区の生産現場の視察
原種種子(R2)を使った増殖の試験的实施
- 活動成果:30kg の種子から 64 袋(約 2t)を生産

次号予告 灌漑分野の活動状況について報告します。

農家の声

今回、仲間とともに初めて種子生産活動に参加し、プロジェクトから 10 回以上の指導を得ました。とりわけ、ソムサード地区への視察では、先輩農家から直接話を聞くことができ大変有意義でした。除草や異株抜きはまだ難しいですが、今後も継続して当地の稲作に貢献したいと思っています。



ターパントン郡セーサラロン地区ノンカン村
ブンリアンさん

マーケティング分野：2018-2019 年乾季作における活動成果



セーサラロン地区農家による野菜マーケット(直売所)

マーケティング分野では、「とにかく作る」から、「市場で売れるもの、投入に見合った収益が見込めるものを作る」にシフトするよう市場動向の把握、収支計算・栽培計画の作成を支援しています。また、農家と民間組織とのネットワーク強化を通じた販路拡大の活動や、市場に出回っていない品種や顧客のニーズに合う野菜の栽培技術の向上も行っています。

今回は、マーケティング分野における 2018-2019 年乾季作(2018 年 12 月～2019 年 3 月)の活動内容や成果について報告します。

1) 主な活動内容

① 売るためのもの作り

- ・農家による市場ニーズの把握
- ・農家自らが試算し、投入に見合う作物を選定するための支援
- ・栽培技術支援

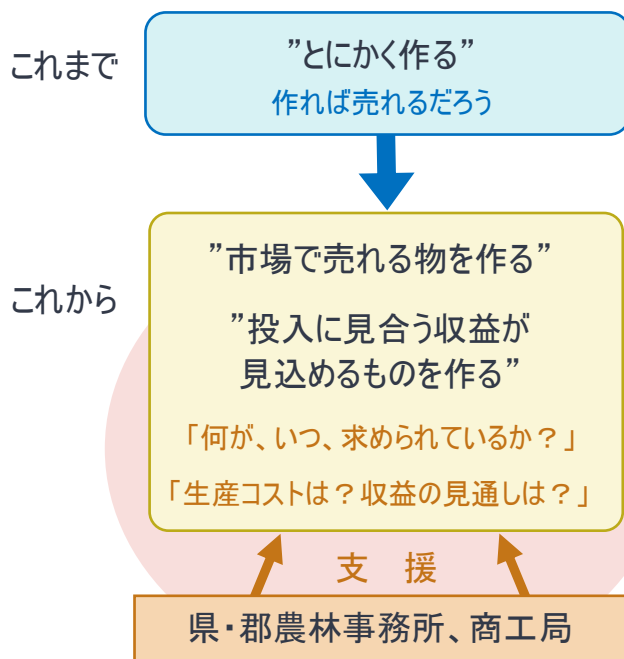
② 付加価値のある野菜の栽培

- ・安全、安心な野菜(無農薬栽培)
- ・市場に出回っていない品種
- ・栽培技術支援(天然素材を利用した忌避剤の普及など)

③ 販路拡大

- ・民間セクターによる作物取引の仲介
- ・レストラン等への訪問による取引先開拓
- ・Facebook の開設、TVCM 放映
- ・野菜マーケット(直売所)

「作って売る」から「売るために作る」へ



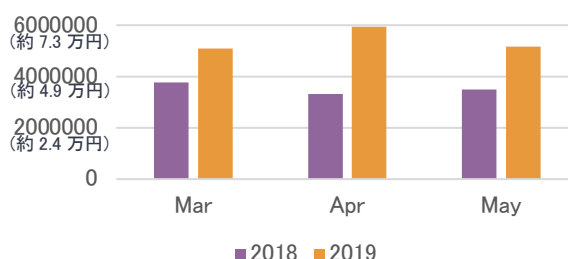
2) 成果

① ポンシム農家グループ

- ・新品種(日本キュウリ、ダイコン、ズッキーニ、オクラ、赤カブなど)の導入、販路拡大により売り上げが約 1.5 倍に増加。また、個人や大口購買者、レストランなどの新規の顧客も増加。
- ・新たな農家が加わり、栽培面積も拡大している。

< 売上げ比較(農家一戸あたり) > 単位: キーブ/農家

Vegetable Sales



②その他の地区(野菜導入農家 30 軒)

- ・野菜栽培技術の習得:
ダイコン、ズッキーニ、青梗菜、オクラ、ピーチリ、ニンジン
(これらの中には、試験栽培を終え、実際に販売を始めたものもある)
- ・キノコ栽培: トライアルとして栽培しながら近隣に販売中
- ・収穫物の販売促進: レストランへの販売、注文のあった業者への販売など
- ・販売連携: ポンシム農家グループを通じた販売の委託を開始



ピーチリ栽培農家の視察

栽培方法を習得している新たな野菜たち



ダイコン



ズッキーニ



チンゲン菜



オクラ



ピーチリ

(トウガラシの品種の1つ)



ニンジン

農家から一言① ポンシム農家グループ長 セーンサワンさん

以前は、ダイコンやニンジンなど栽培が難しい野菜があったのですが、今では、様々な種類の質の高い野菜を作ることができるようになった、と自信をもって言うことができます。市場での売り上げも上々です。

最近では、私達農家グループが生産する野菜を買ってくれる固定客も増え、販売量も増えてきました。そのため、プロジェクトの他の対象地区の農家グループが生産した野菜の販売委託を受けることもしています。こうすることで彼らへの販売のお手伝いにもなりますし、拡大している顧客ニーズへの対応にも役立っています。



農家から一言② セーサラロン農家副グループ長 キポーさん

これまで私の地区では稲作が中心でしたが、プロジェクトの活動によって野菜栽培をビジネスとして取り組む機会に恵まれました。スタディツアーなどで野菜栽培の先輩農家の姿を見るにつれ、自分たちも野菜栽培のプロになりたいという思いが強まりました。地元で直売所を立ち上げてからは、現金収入も得られ、家計に必要な支出もそこそこ賄えるようになってきました。

今後は野菜をもっと出荷できるよう、栽培面積を拡げるなどしていきたいと思っています。



<次回(8月中旬頃)予告: 灌漑分野 >

灌漑の水管理や施設管理は、水利組織の重要な活動です。この活動を円滑に行うためには予算が必要です。次号は、各水利組織の財政改善の取り組みを紹介します。

2019 年雨季の野菜栽培と販売結果

当プロジェクトのマーケティング分野では、農家の収入向上に資するため、サバナケット県農林局と商工局の協力のもと、市場動向や販売収支を意識した作物の生産と販路拡大を行っています。

今回は、2019 年雨季作(2019 年 6 月～9 月)の販売実績やその他の成果について報告します。

1. ターパントン郡セーサラロン地区

販売実績(1 世帯平均)	販売総額(6-9 月)	生産コスト	利益
対象農家:セーサラロン地区 9 軒	2,244,571 kip	502,857 kip	1,741,714 kip

(約 28,214 円)

(約 6,321 円)

(約 20,653 円)

○主な販売先、販売品目

- 野菜マーケット(直売)、郡市場の店、レストラン
- ワケギ、キュウリ、サラダ菜、空心菜、マスタード、ナス、オクラ

○販売促進のための工夫

- 郡内各所に直売所の告知ポスターを掲示
- 市場流通の少ない野菜(オクラ、ダイコン)を生産
(オクラは試食コーナーを設置し、効能ポスターも掲示)
- 野菜は「長持ちする」と評判が良く、固定客も増えている。



セーサラロン地区農家による
野菜マーケット(直売)

2. ソンナブリ郡ノンブアルアン地区

販売実績(1 世帯平均)	販売総額(6-9 月)	生産コスト	利益
対象農家:ノンブアルアン地区 7 軒	1,787,429 kip	144,429 kip	1,643,000 kip

(約 22,468 円)

(約 1,815 円)

(約 20,653 円)

○主な販売先、販売品目

- 村および郡の市場、買い付け業者
- ワケギ、サラダ菜、コリアンダー、チンゲン菜、トウガラシ、ナス

○販売促進のための工夫

- 市場流通の少ない野菜(ズッキーニ)に挑戦
- 村内で直売市の開催(週 1 回)
- 各農家が収穫した野菜を 1 人がまとめて市場へ出荷
- 郡市場への営業訪問



同地区でも屋根掛け栽培を開始

<屋根掛け栽培の試験的实施>

プロジェクトでは、雨季でも野菜栽培ができるよう、希望する農家に屋根の材料として使用するビニールシートを貸与しています。

通常、野菜は雨季に流通量が減り、価格が上がるため、この時期に屋根で雨をよけて栽培することで、高値で野菜を販売することが狙いです。ビニールシートの貸与を受けた農家の収益の一部は、材料費として回収され、農家グループの基金として更なる農業投資に使われる予定です。



資材となる支柱の調達と
設置は農家自らが行う

3. パランサイ郡パノムサイ地区

販売実績(1世帯平均)	販売総額(6-9月)	生産コスト	利益
対象農家:パノムサイ地区6軒	2,332,333 kip	425,750 kip	1,906,583 kip
	(約 29,317 円)	(約 5,352 円)	(約 23,966 円)



安全野菜を売る農家の目印として
市場では共通のキャップを着用

○主な販売先、販売品目

- 郡の市場、買い付け業者
- ワケギ、コリアンダー、サラダ菜、菜の花、オクラ

○販売促進のための工夫

- 安全野菜の認知度向上
(チラシ、生産農家のユニフォーム、試食サンプル提供)
- 注文の増加に生産が追いつかない状況のため、栽培計画の調整による供給体制の強化を検討
- 郡市場への営業訪問

4. カイツン・ポムウィハーン郡ポンシム地区

○主な販売先、販売品目

- サバナケット市場内の直売所、市内レストラン、
買い付け業者
- 野菜全般

○販売促進のための工夫

- 大口顧客やレストラン等の安定した顧客の確保
- 供給体制強化のため他地区と連携したサプライ
ネットワーク構築の試み



移転して広がった市内のポンシム農家直売所

顧客からの声

これまでサバナケット市内で手に入らなかったズッキーニなどの野菜が仕入れられるのは嬉しいことです。農家が今後も生産し、定期的に販売されるのなら積極的に購入したいと思っています。当レストランでは、外国人常連客からのパーティ料理の大きな注文を受けることなどもありますし、フランス料理に使える野菜の調達は私共にとって非常に重要だと言えます。



ブアワン・アットウィサイさん／市内フランス料理店オーナー

商工局職員より

サバナケット県商工局は、プロジェクトの一員として顧客ニーズの開拓、野菜の販促、これから市場で求められそうな新たな商品作物の発掘に取り組んでいます。新たに展開した、オクラ、ダイコン、ズッキーニは、次第に市場でのニーズが高まっていますが、実際の需要に対して農家側の供給が追いついていない状況です。必要な時に必要な量を生産・供給していくために、どのように農家が生産技術を向上し、チームで取り組んでいけるかが今後の課題だと思います。



ジャルーンポンさん／県商工局中小企業・商業課職員

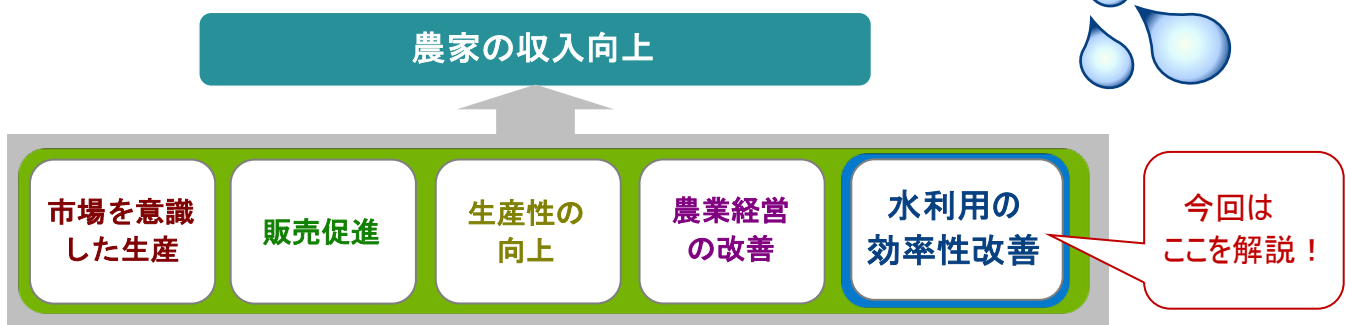
次号予告 雨季の稲作の活動と収量について報告します。

灌漑分野：効率的な水の利用について

当プロジェクトでは、灌漑、営農、マーケティングのそれぞれの分野が2年半の間に様々な活動を行ってきました。これらは、プロジェクトが終了した後もラオス側自らの力で継続・発展されることが望まれるため、それぞれの活動を一冊のガイドブックにとりまとめました。

ガイドブックには、プロジェクトが目指す「農家の収入向上」を実現するための5つの着眼点（「市場を意識した生産」、「生産性の向上」、「販売促進」、「農業経営の改善」、「水利用の効率性改善」）について、具体的にどのような活動を実施するのか、誰が・いつの時期に実施するのか、実践した際の優良な事例などについて記載されています。

今回は、その中で灌漑分野「水利用の効率性改善」について解説します。



1. 水利用を効率的にするためのポイント

- ① 灌漑面積を増加させること
- ② 水利費（水代）を100%徴収してポンプの電気代を支払い、灌漑基金を積み立てること
- ③ 水利組織の会計を明確にすること
- ④ 灌漑施設を適切に管理・運営すること

これらを水利組織がきちんと行えるよう、県や郡の農林事務所職員が技術的な支援を行います。

2. ガイドブックの内容

灌漑面積を増加させるには、水管理を適切に行うことが最も重要です。

そのためにまず知っておくべきことは、圃場1ヘクタールあたりどの程度の水が供給されているのか、という点です。

具体的には、ポンプでどれくらいの水を取水して、何キロワットの電気を使用しているのか、これらのデータを収集・分析して、水がどの程度配分されているかを明らかにします。ガイドブックでは、これらの計算方法を解説しています。



ガイドブックの第6章(灌漑分野)では、以下のような項目で、灌漑職員が現場で使える経験や技術が紹介されています。

第6章 水利用の効率性改善

1 灌漑施設の補修

- (1) 限られた予算での補修法
- (2) ポンプ用モーターのオーバーホールと費用
- (3) ポンプ用モーターの日常点検とメンテ

2 水管理

- (1) 流量計測方法
- (2) ポンプの稼働時間の記録の仕方
- (3) 用水量の分析と水利組織への分析結果説明

3 水利組織の財務改善

- (1) 会計の帳簿づけと監査
- (2) 水利費の徴収

4 水利組織の運営管理能力改善

- (1) 会議運営と活動計画の策定
- (2) 役員選挙

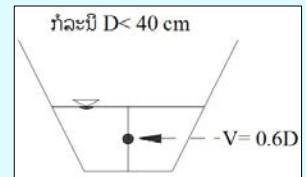
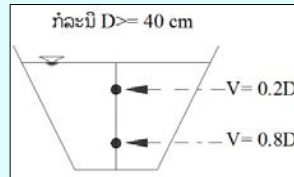
「灌漑面積を増やしたい」、「水利組織の財政状況を改善したい」など、農家と行政職員のやる気があっても、どのように取り組んだら良いのか困っている地区があれば、サバナケット農林局のSavan PADプロジェクト担当職員にご連絡下さい。私達が経験した、これらの活動の説明をいたします。

次号予告

営農分野のガイドブックについて報告します。

Case Study: water velocity in Sesalalong during dry season in 2018-2019, 04 months long, from December to March. Irrigation staffs take responsibility for collection information by using water flow meter, measure in main canal near head work, the level of measuring depends on the depth of water (D) in canal.

- The water depth(D), $D \geq 40\text{cm}$ Velocity(V) of water is on 02 points: the depth 0.2D and 0.8D
- The water depth (D), $D < 40\text{cm}$ Velocity(V) of water is on 01 point at 0.6D



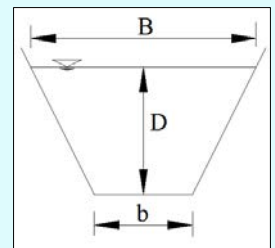
Formula of canal Area (A)

$$A = 1/2(b+B)D$$

Formula of Qualitative water (Q)

$$Q = AV$$

Q is qualitative water (m^3/s)
A is Area canal (m^2)
V is velocity (m/s)



<計測ポイント、計算方法の解説(ガイドブック p127)>



Measure Water velocity

No	วันที่วัด (Date)	ชื่อผู้วัด (Name)	ระดับน้ำวัด (m) (Water level)	ความลึกน้ำวัด (m) (Water depth)	ความเร็วน้ำวัด (m/s) (Water velocity)				ค่าเฉลี่ย (Average)	พื้นที่หน้าตัด (m²) (Cross-section area)	ปริมาณน้ำ (m³/s) (Flow rate)	
					0.2D	0.8D	0.6D	0.6D				
1	3-3am-19	ท.สัมพันธ์	07	81	0.2D	16	0.5	0.5	0.5	0.43	1.79	0.78
					0.8D	65	0.3	0.4	0.4			
					0.6D							
2	4-3am-19	ท.สัมพันธ์	07	65	0.2D	13	0.3	0.4	0.4	0.30	1.25	0.38
					0.8D	52	0.3	0.2	0.2			
					0.6D							
3	5-3am-19	ท.สัมพันธ์	07	70	0.2D	14	0.3	0.5	0.4	0.35	1.38	0.48
					0.8D	58	0.3	0.3	0.3			
					0.6D							
4	6-3am-19	ท.สัมพันธ์	10	58	0.2D	12	0.5	0.5	0.5	0.45	1.08	0.49
					0.8D	46	0.3	0.5	0.4			
					0.6D							
5	7-3am-19	ท.สัมพันธ์	10	72	0.2D	14	0.5	0.5	0.5	0.45	1.43	0.64
					0.8D	58	0.4	0.4	0.4			
					0.6D							
6	8-3am-19	ท.สัมพันธ์	10	72	0.2D	14	0.6	0.5	0.5	0.47	1.43	0.67
					0.8D	58	0.4	0.4	0.4			
					0.6D							

The record example

<計測状況、記録用紙の紹介(ガイドブック p128)>

営農分野：生産性の向上について

当プロジェクトでは、稲作の収量を上げるため、種子・肥料の貸付と4回の研修をセットにした栽培技術強化プログラムに力を入れています。これは、優良種子を使い、肥料を適切な時期に、多からず少なからず適量を、適切な方法で施用することで、今まで以上の収量を目指す、というものです。

プロジェクトは、「農家の収入向上」を実現するために5つの着眼点で活動していますが、営農分野はこのうち「生産性の向上」の部分を担当しています。プロジェクトが編集したガイドブックには、どのようにして研修と種子・肥料の調達、配付、資金の回収を組み合わせるのかについて記載がされており、今回は、その概要についてお話しします。



1. 収量向上のポイント

- ① 栽培カレンダーによる
栽培計画、実施、記録
- ② 種子選別
(水や塩水による選別)
- ③ 浸種、催芽、播種、移植
- ④ 施肥(基肥、2回の追肥)
- ⑤ 病虫害の対策
- ⑥ 水管理
- ⑦ 収穫および収穫後処理

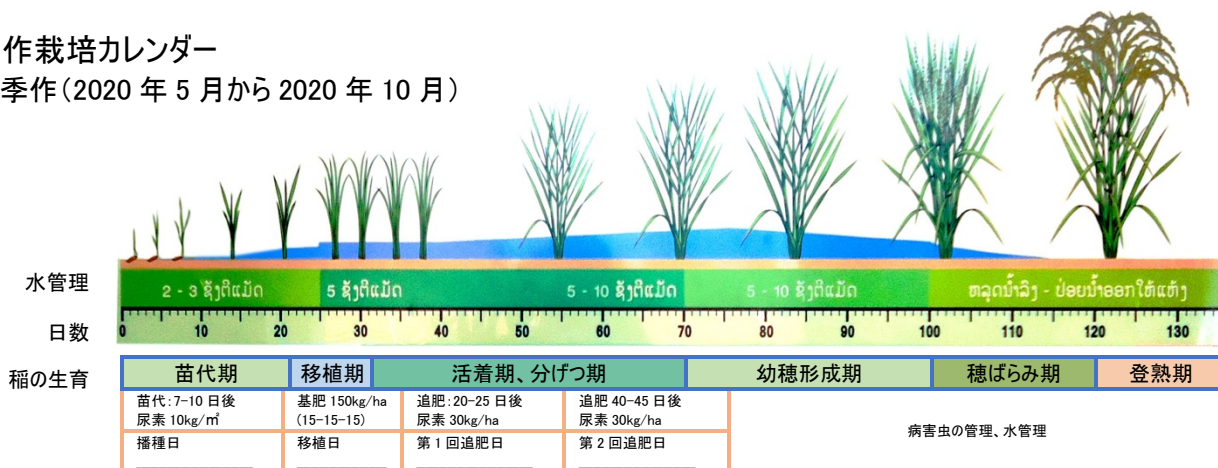
2. ガイドブックの内容

プログラムを円滑に進めるためには、種子・肥料の配付と4回の研修を組み合わせることが重要なポイントです。

例えば、第1回研修の終了後に、種子と基肥を配付し、第2・3回目研修の後に追肥を配付するなど、研修ごとに必要な投入材を配付することで、農家が習ったことをすぐ実践しやすくするような環境作りに配慮しています。

ガイドブックでは、こうした点をふまえ、研修の内容と実施方法、モニタリングや現場指導の仕方、収量調査の実施方法の他、種子・肥料の貸し付けや資金の回収をどのような手順で行うかについて細かい説明が記されています。

稲作栽培カレンダー
雨季作(2020年5月から2020年10月)



農家は、この栽培カレンダーを参照しながら、それぞれの作業や水量の管理をします。

ガイドブックの第3章(営農分野)では、以下のような項目で、農業普及員が現場で使える経験や技術が紹介されています。

第3章 生産性の向上

1 種子・肥料の貸付と研修をセットにした栽培技術強化プログラム

- (1) 概要
 - (2) 農家会議、プログラムの申込手続き
 - (3) 研修
 - ①第1回研修(栽培カレンダーを用いた計画、種子の選別、施肥方法)、基肥の配付
 - ②第2回研修(追肥1回目、施肥量の計算方法、病虫害対策)、追肥配付
 - ③第3回研修(追肥2回目、施肥量の計算方法、病虫害対策)、追肥配付
 - ④第4回研修(刈り取り適期、収穫と収穫後処理)
 - (4) モニタリングと現場指導
(全体の20%以上のモニタリングと現場指導)
 - (5) 資金回収: 水利組合→DAFO→PAFO
 - (6) 収量調査(聞き取り調査)
- 2 集中実証圃、普及員と中核農家のための実証圃の設置
- 3 収量調査(坪刈り)の実施

「収量が増えない」、「普及員が研修を実施しても農家が集まらない」、このような経験がある地区は、サバナケット県農林局のSavan PADプロジェクト担当職員にご連絡下さい。

次号予告

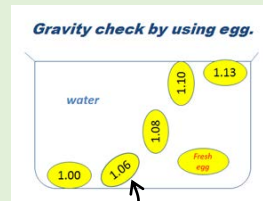
マーケティング分野のガイドブックについて報告します。

<ガイドブックの内容抜粋>

●種子・肥料貸付契約書 (P.51-52)

- 種子・肥料貸付けによる条件を農家に説明した上で参加申込書を集めること。
- 栽培技術強化プログラムに参加する農家は研修に参加すること。

●第1回研修、種子・基肥の配付 (P.55)



How to select seed

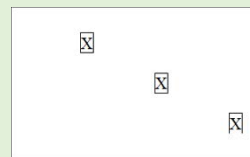
種子選別に理想的な塩水濃度は卵の傾きで確認できる

●モニタリングと現場指導 (P.63-65)

研修終了後、習ったことをどの程度実践しているか、モニタリングシートを用いて確認する。



●収量調査 (P.69)



圃場の3箇所を1㎡ずつ刈り取って収量を推計



脱穀

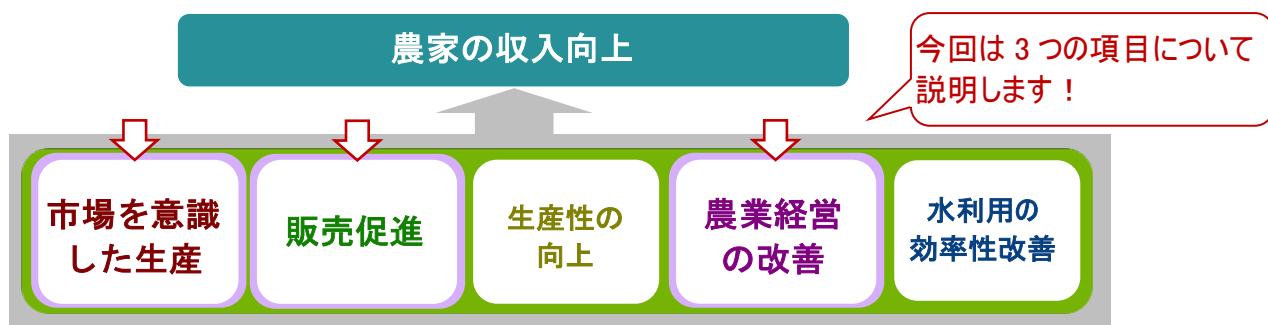


乾燥後に重量を計測

マーケティング分野：アグリビジネス実践 - 栽培から販路開拓まで -

「種子を配付しても農家が栽培しない。」「栽培技術研修を実施しても農家が実践しない。」こんな経験はありませんか。当プロジェクトのマーケティング活動では、収入向上のための野菜栽培・販売活動を農家と実践するにあたり、常に農家の意欲に注意を払うようにしています。研修内容や種子の品質がどれだけ良くても、農家の意欲がなければこれらは活用されずに終わってしまいます。

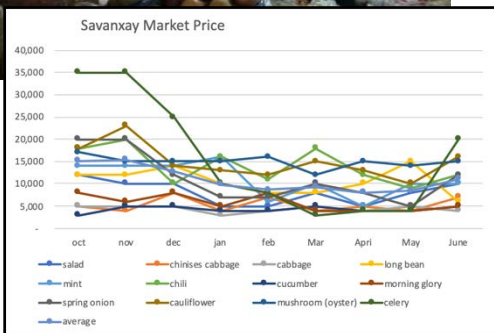
ガイドブックでは、換金作物栽培の実践に入る前に、農家の農業収入向上に対する意欲はどれほどか、意欲の高い農家をどのように探すかなど、農家が主体的に農業ビジネスを展開していくための基盤づくりから販路開拓支援まで、行政がどのようにアプローチしていくか、当プロジェクトの実践に基づいて解説しています。



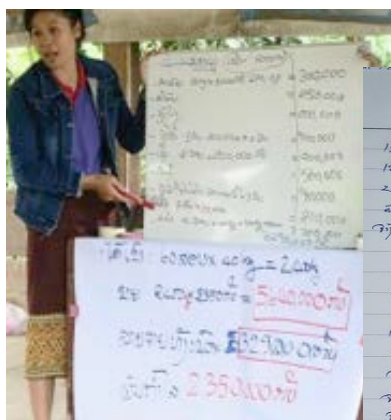
1. マーケティング活動のポイント

- ① どの作物を、いつ売れば儲かるか、農家が考えること。
- ② 契約栽培や市場の潜在的ニーズが高い作物を行政職員が調べ農家へ紹介すること。
- ③ 市場ニーズに応じた作物の栽培技術を農家が習得すること。
- ④ 販売促進のための営業活動や地域間でのネットワークを構築すること。
- ⑤ 収支の記録や栽培計画の作成により、農家が儲かる農業を考えること。

これらの活動を、県や郡の農業局および商工局の職員が、連携しながら総合的に支援しています。



農家に加え、政府職員も定期的に各作物の市場価格の変動など動向を把握。



セミナーを通じて、農家自らが農業収支を把握。現状を知ると共に、今後栽培する作物、栽培する時期を考えていくプロセス。

2. ガイドブックの内容

当プロジェクトのマーケティング活動は多岐にわたり、「市場を意識した生産」、「販売促進」、「農業経営の改善」の3項目をカバーしています。農業ビジネスに関心を示し実践する農家をいかに増やすか、これがマーケティング活動において最も重要な点であり、それには、意欲の高い農家による、早い段階での小さな成功体験の積み重ねがカギとなってきます。

ガイドブックでは、農家に自分たちの農業収入の現状を認識してもらいエントリーポイントから始まり、先進事例や市場調査から農業収入を向上するために何をすべきかについて学び、栽培技術研修に進みます。販売促進に関しては、どのような作物を、どうやって販売したか、需要喚起も含め、当プロジェクトで実践した事例を用いて紹介。農業経営の改善については、主にグループでの品質管理や安定供給について、現在実践中の方法をまとめました。

ガイドブックの第2章、第4章、第5章では、以下のような項目で、農業局・商工局の職員が現場で使える経験や技術が紹介されています。

ご関心のある方は、Savan PAD プロジェクト担当職員にご連絡下さい。

第2章 市場ニーズに基づいた生産

1 オーナーシップ醸成とモチベーション喚起

- (1) エントリーポイント: 自分自身の現状を知る
- (2) 将来どうなりたいかのイメージを持つ

2 技術演習

- (1) 土壌改善と堆肥作り
- (2) 市場調査と作物の選定
- (3) 栽培計画の作成
- (4) 基本的な栽培技術の習得

3 経験の共有とネットワーク構築

- (1) グループ内で栽培・販売活動を振り返る
- (2) 県内の農家間で経験共有促進

第4章 販売促進

1 儲かりそうな作物を農家へ紹介

- (1) 政府職員による市場調査・営業活動と農家への説明
- (2) 栽培技術研修と試験用種子の提供

2 広告／販促

- (1) 農家の販売活動支援

第5章 農業経営改善

1 持続的に利益を追給するための能力強化

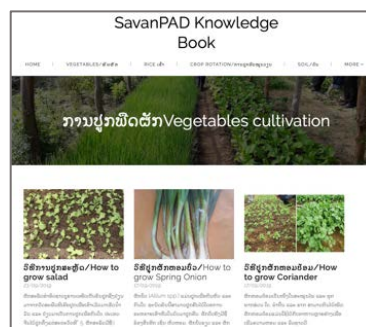
- (1) 帳簿管理
- (2) 安定供給のための栽培計画作成
- (3) 品質管理のための組織運営体制づくり

こちらも注目！

SavanPAD Knowledge Book

野菜やコメなど栽培技術の詳細を掲載しています。詳しくは以下を参照下さい。

Savanpad.webnode.com



Facebook も Share



次号予告 ラオス側職員が行っているモニタリング・評価活動について報告します。

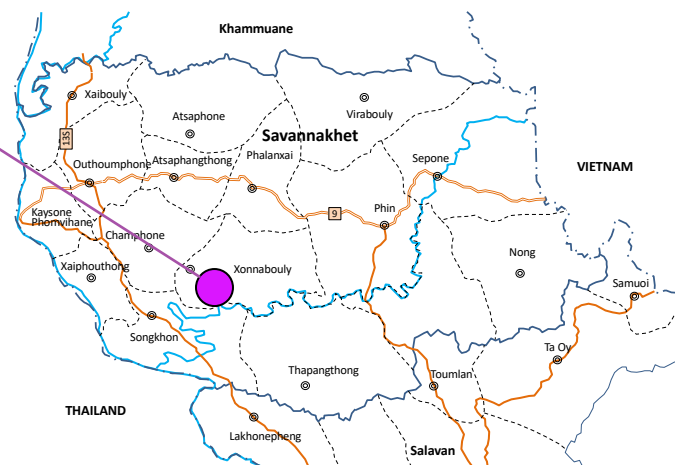
県職員によるモニタリング・評価 — 各地の成果

プロジェクトは、収入向上のため灌漑、営農、マーケティングの活動を中心に行っていますが、こういった成果が出て、地域が良くなってきているのか？農家、水利組織が中心となり DAFO がサポートする体制が出来ているか？これらについて各チームの活動を農林局、計画投資局が連携してモニタリングしています。モニタリング活動によってプロジェクトサイトでは様々な効果が出てきていることが確認されました。今回は将来的にモデル地区となるノンブアルアン地区、セーサラロン地区の成果を紹介します。

1. ソンナブリ郡ノンブアルアン地区

地区面積 200ha、農家数 120 戸

2018 年 6 月からプロジェクト活動を開始し、種子・肥料の貸付事業によるイネ栽培技術の普及、土に負担をかけ年々減収に悩むキャッサバ栽培から持続性の高い安全野菜栽培への移行支援、そして水管理・施設管理技術の強化などを中心に支援を実施中。これらの活動により、コメの収量増加、野菜栽培・販売の開始、灌漑面積増加となっており、農家の収入向上につながっています。



地域で発現している効果

営農

コメの栽培技術の実践



左:実践圃場、右:慣行栽培

収量(収入)増加

マーケティング

野菜栽培の導入



屋根掛けハウスでの野菜栽培

新たな収入源の確保

灌漑

水管理技術の強化

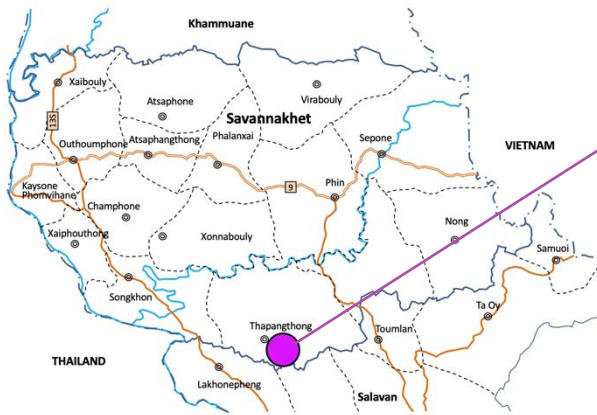


新たな水路掘削

灌漑面積増大
(収穫量増加)

農家の声: 経済的な余裕や収入の見通しが生じたことによって...

- 家計が楽になった。貯金ができるようになった。
- 家族や親戚が困っている時に助けることができるようになった。
- 農業へのやる気が高まり、さらなる収入増加のため屋根掛けハウスの増設や機会に投資できるようになった。



2. ターパントン郡セーサラロン地区

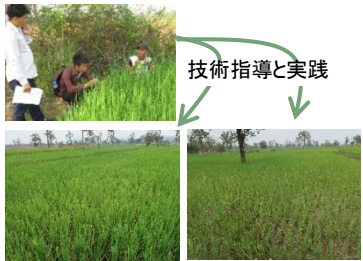
地区面積 2,000ha、農家数 350 戸

2018 年 6 月からプロジェクト活動を開始し、種子・肥料の貸付事業によるイネの栽培技術の普及、安全野菜栽培の導入・販売支援、水管理・施設管理技術の強化を中心に支援を実施中。これらの活動によりコメの収量増加、野菜栽培・販売の開始、灌漑面積の大幅な増加となっており、こちらの地区も農家の収入向上につながっています。

地域で発現している効果

営農

コメの栽培技術の実践



左:実践圃場、右:慣行栽培

収量(収入)増加

マーケティング

野菜栽培の導入、販売支援



左:安全野菜の栽培
右:安全野菜で新規顧客開拓

新たな収入源の確保

灌漑

水管理技術の強化



下流への水供給のための
水路補修・掘削

灌漑面積増大
(収穫量増加)

農家の声: 経済的な余裕や収入の見通しが生じたことによって...

- 野菜の売り上げで子どもの学費を出せるようになった。(以前は牛や鶏を換金していた)
- 野菜販売で毎週収入があるため、子どもや家族のために物を買ってあげたり、教育費にお金を出せるようになった。
- 収入の見込みがあるので、銀行で資金を借りて農作業用の小屋に電気設備を導入した。
- 小さい面積でもコメの収量を確保できるので、農地を家族に分配することができた。

私たちは、モニタリング活動を通じて、活動の成果を把握し、紹介していきます。(モニタリング・評価担当職員)



次号予告 次号も引き続き各地の成果について報告します。

県職員によるモニタリング・評価 — 各地の成果(2)

今号は前号に引き続き、将来的にモデル地区となるポンシム地区、トンヘン地区の成果を報告します。

1. カイソン・ポムウィハーン郡ポンシム地区

地区面積 10ha、農家数 23 戸

本地区は有機野菜栽培グループ農家として、これまで有機野菜の栽培・販売を行ってきており、一定の経験を持っていることから、マーケティングチームが中心となり主に販路拡大の支援を実施しています。また、彼らの持っている知識・経験を他地区の農家にも共有しています。これによってポンシム地区は地区内農家の収入向上だけでなく、プロジェクト全体での野菜栽培技術の向上、農家の収入向上にも大きく貢献しています。



地域で発現している効果

マーケティング



レストランへの訪問販売



生産者グループマネジメントの強化



市場での販売支援

販促ツールの開発支援 (Facebook ページなど)

新たな野菜栽培の導入支援

生産量、販売額(収入)の増加

農家の声: 経済的な余裕が生じたことによって...

- 子どもが大学に進学し、その教育費を出せるようになった。
子どもは教育学を勉強したが、農業が儲かると知り、教育関係に就職せず、農業を始めた。
- 貯金ができるようになり、屋根掛けハウスの増設、野菜栽培の拡大、それらに関する設備投資をするようになった。

2. サイプリ郡トンヘン地区

地区面積 450ha、農家数 548 戸

本地区では、種子・肥料貸付事業によるコメの栽培技術の普及、水管理・施設管理技術の強化、野菜栽培農家への栽培技術・販売支援を中心に活動を行っています。これらの活動によりコメの収量増加、水利組織の水管理技術力や組織運営力が強化されることで灌漑面積も大幅に増加し、農家の収入向上に大きく貢献しています。



地域で発現している効果

営農

コメの栽培技術の実践



現地巡回指導

収量(収入)増加

灌漑

水管理技術の強化

- ・灌漑状況の確認
- ・ポンプ技術研修
- ・組織運営の指導

灌漑面積増大



収穫量増加

農家の声: 経済的な余裕が生じたことによって...

- コメ栽培において、少ない投資(肥料)で、収入(収量)を上げることができた。
- そのため、家族のためにお金を使うことができる。貯金をすることができる。

職員達も現場で日々奮闘しています！

営農チーム



灌漑チーム



ミャンマー、フィリピンへのスタディツアーの実施

プロジェクトでは、①地方行政職員の水利組織・農家に対するサポート体制および良好な関係構築、②水利組織の組織力強化、についてミャンマー、フィリピンの優良事例を学ぶため、8月14日～23日の間、スタディツアーを実施しました。



ミャンマー訪問先データ(モデルサイトのみ)

灌漑面積 : 約 1,800ha
 受益農家 : 約 950 戸
 灌漑施設 : ダム(灌漑)、頭首工、
 幹線・支線水路
 主要作物 : コメ
 水利組織数: 5 組織 (2017～2018 年設立)

フィリピン訪問先データ

灌漑面積 : 約 87,000ha
 受益農家 : 約 62,000 戸
 灌漑施設 : ダム(灌漑・水力発電)、頭首工、
 幹線・支線水路
 主要作物 : コメ
 水利組織数: 360 組織 (1970 年代設立)

参加者からの報告



1) ケオウドン・スリヤー (サバナケット県農林局計画課長)

今回のスタディツアーでは、行政職員が水利組織・農家をどのようにサポートしているのか、どのように信頼関係を構築しているのかなどについて調査して来ました。

行政職員にとって重要なポイントだと感じたのは、「灌漑や栽培などの具体的な知識・技術」「農家とのコミュニケーション能力」でした。シンプルですが実践するのは非常に難しいものです。私達のプロジェクトでもこの考え方を浸透させることが重要と思っています。



水利組織との意見交換<ミャンマー>



2) ポンティープ・サヤチャック (サバナケット県農林局計画課)

訪問先の行政職員と農家はとても良好な関係で、行政職員は、非常に積極的で現場にも良く出かけ、農家の声を常に尊重しながら必要なサポートをしています。これが良好な関係構築のポイントなのだと感じました。また、行政職員、水利組織、農家共にそれぞれの役割や将来に向けたビジョンなどを十分理解していました。協力関係を築くためには自分たちの仕事をしっかりと理解しておくことが必要だと感じました。



行政職員、水利組織との意見交換
＜フィリピン＞

3) ウェッサダー・チャンタウォンサー (サイプリ郡農林事務所灌漑セクション)



ミャンマーでは、灌漑スタッフは水路の維持管理だけでなく栽培技術に関するサポートも行っています。政府職員は農家の意見を聞いた上でアドバイスをしていました。

フィリピンでは関係セクションが協力して農家の収入向上に取り組んでいます。行政のサポートのおかげで水利組織が農業機械のリース、種子・肥料の貸付、緑豆の栽培推進など、農家の収入向上のための色々な取り組みが行われていて、行政職員の意識改革が非常に重要だと感じました。



水利組織訪問と意見交換
＜フィリピン＞



幹線用水路(政府が管理)
＜ミャンマー＞



灌漑・発電用ダム(売電収入は灌漑予算として使用)
＜フィリピン＞



水利組織の財源となる養殖池
＜フィリピン＞



支線用水路(水利組織が管理)
＜ミャンマー＞

今回のスタディツアーで得られた知見は、後日取りまとめてプロジェクトが作成するガイドブックに掲載する予定です。

次号予告

灌漑スタッフ(OM ユニット、DAFO)の灌漑ポンプ用モーターに関する知識・技術を強化するため、モーター修理会社に1週間通い、勉強してきました。次号でその内容を報告します。

プロジェクトによる支援の継続状況—コロナ問題による制約下で

プロジェクトは、2019年11月から乾季作の活動を開始し、3月中旬まで研修やスタディツアー等を実施して来ました。その後、ラオスで3月30日に新型コロナウイルスの感染防止策に関する通知が発令されたことから、当面の間、カウンターパートによる現場での活動が停止されました。プロジェクトでは、こうした現場に出向けない状況下でも、電話でカウンターパートが農家と連絡を取るなどして、農業生産が継続できるよう助言や支援を行っています。今回は、それらについて紹介します。

1. マーケティング分野の取り組み

①地域の食糧需要を支える農家



新型コロナウイルス感染防止対策措置により厳格な移動制限が敷かれ、物流が円滑でない中、当プロジェクトが支援する農家がサバナケット県内や地域の野菜供給を担っている姿が報告されています。これらの農家には顧客が付き始めており、積極的に野菜を買いに来てくれているよ

うです。特に、ポンシムグループやセサラロン地区(ターパントン郡)の農家は、これまで市場に合わせた野菜栽培、栽培スケジュール管理、規模拡大を行ってきており、こうしたプロジェクトの支援活動と農家の努力により、農業生産及び販売活動が定着し始めています。



写真上: 灌漑水を利用した乾季野菜栽培 (セーサラロン地区)

写真下: 農家による野菜直売(ポンシム地区)

②雨季作の準備始動

様々な活動が停止する中、当プロジェクト農家は着々と雨季作の準備に取り掛かっていました。2月から農家と話を進めていた屋根掛け栽培の準備は、新型コロナウイルスの影響で4月中はプロジェクトによる現場指導が行えませんでした。農家が主体的に支柱の組み立て作業に取り組んでいます。5月からは、プロジェクト支援によるビニールシートの配布が開始されます。

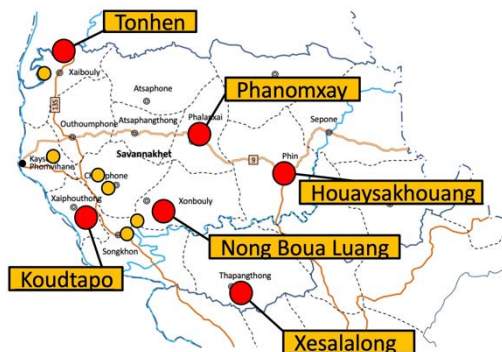
今年は、昨年に比べて更に雨季の栽培面積が増えています。昨年の雨季作栽培で顧客を掴み、手応えを感じた農家が意欲を見せています。



前年は試行錯誤だったが、販売による現金収入を継続的にゲット。



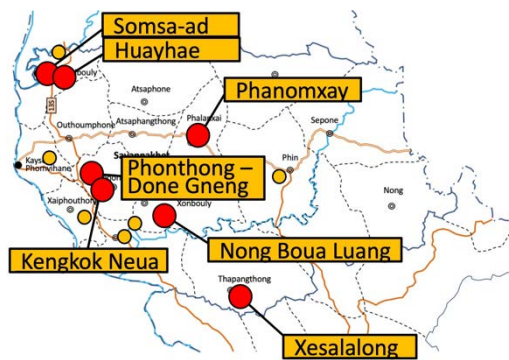
新規に屋根掛け栽培する地区では、先進農家による屋根設置の研修も。



2. 営農分野の取り組み

当プロジェクトでは、稲作技術普及のため種子・肥料の貸し付けプログラムを展開しており、今乾季は5郡7地区で324名の農家が参加しています。

栽培期間中に栽培カレンダーの使い方、種子選別、苗代・移植、適正施肥、自然農薬を使った病害虫対策、収穫・収穫後対策など、計4回の技術研修を行う必要がありましたが、新型コロナウイルス感染防止対策措置による移動制限が発動される前に全てを終了しました。3月下旬から収穫が始まっており、大幅な増収が見込まれています。



生育は順調



収穫に期待！

3. 灌漑分野の取り組み

灌漑は、水利組織がPAFO、DAFOのサポートを受けながら計画的に灌漑準備、灌漑中の施設の管理、水管理を適切に行ってきたことで、新型コロナウイルスに関する影響を受けることなく3月までに終了しました。営農分野、マーケティング分野の活動を水供給の面から連携した結果、ソムサード地区では191ha(2019年)から約260haに、ノンブアルアン地区では59ha(2019年)から約100haになるなど、いずれの地区も灌漑面積が増大しています。



サイブリ郡ソムサード地区



ソナブリ郡ノンブアルアン地区

Savan PAD プロジェクトのカウンターパートは、
新型コロナウイルスに負けず、農家を支援しています。

マーケティング分野は、サバナケット県農林局のほか、商工局からの協力も得ながら、
農家支援のため様々な活動を展開しています。



県農林局ポーケオさん(写真左)



県商工局ジャルーンポーさん(写真左)



県商工局セーンチャンさん(写真右)

次号予告 今号は、コロナ問題による特集号となりました。そのため、当初予定していた県職員によるモニタリング・評価の状況については、次号で報告します。